

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立三井高等学校

62

自己評価 学校運営計画(4月)
学校運営方針
『夢へチャレンジ! 学び、励み、未来を創る MII for me』
「MII for me」「チーム三井」のスローガンのもと、強い使命感と連帯感をもって一丸となり、教育的愛情に基づく生徒理解と生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導で個性を伸ばし、自己実現・夢実現を可能にする意図的・計画的な教育活動を組織的に推進する。

学校関係者評価
自己評価は
A : 適切である
B : 概ね適切である
C : やや適切である
D : 不適切である

評価項目 具体的目標 具体的方策 評価(3月) 次年度の主な課題
教科指導
基礎・基本の定着と確かな学力の育成
ICT機器を有効活用し、「主体的・対話的で深い学び」を実践する。
中途退学者の防止
教科担任連絡会等を実施し、生徒一人ひとりに必要な修学支援を行う。
新教育課程への対応と教育評価の見直し
全学年新課程となる次年度向けに、教科書採択等で各教科と協議を重ねる。
図書教育の推進と総合的な探究の時間の活性化
アドバンスタイムの充実や図書委員会の活性化を図り、読書を推進する。
生徒指導
基本的生活習慣の確立とマナー指導の徹底
「三井高校生3つの約束」を自分たちが守るべき約束として捉えさせ、基本的生活習慣のさらなる確立を図る。
地域連携と防災・危機管理
市や関係機関と連携をし、生徒の安全指導の推進や基本な災害等への対応策を検討する。
進路指導
3年間を見通した系統的なキャリア教育・進路指導の充実
上級学校や職種を知り、早期に自己の適性に合った進路目標を立てさせる。(第1学年)

項目ごとの評価 学校関係者評価委員会からの意見
A
・生徒一人一人に必要な修学支援については、多くの会議等を開くなど、十分に対応していただいていると思う。
・転学や退学する生徒がいなくなるよう、さらに努力していただきたい。
A
・制服の着こなしについて、しっかりと指導をしていただきたい。特に、スカートを短くして着用することが、不審者等に狙われやすくなることをしっかりと生徒に伝えていただきたい。
A
・総合的な探究の時間において、小郡市と連携した活動は評価できる。今後、継続させるとともにさらに発展させていただきたい。

研修ICT	校内及び校外研修の充実	本校が抱える諸課題及び将来を見据えた研修会を、他の分掌と連携して企画・実施する。 教員の資質向上のため、授業アンケートや公開授業を推進し、教科指導力を高める。 人権・同和教育研修の推進・充実を図り、教職員の人権意識や人権感覚を高める。	A B A	A	A	必要な研修は多く、いずれも重要だが、設定日や実施形態等を工夫し、計画をたてていきたい。また、授業アンケートの実施形態や実施時期を再検討し、より効果的な取り組みとしていきたい。	
	授業改善とオンライン学習推進	Chromebookや電子黒板などといったICT機器に関する資料や情報の提供を行い、授業で活用できる環境を整備する。 令和4年度に導入したスタディサブリの1層の活用を図り、生徒や保護者への連絡方法の拡大や、自主学習の機会の増加につなげる。 ICT機器や講義室等利用簿を作成し、計画的な利用を促進する。	A A B			A	一人一台のChromebookを今以上に活用し、アドバンスタイムでのスタディサブリ確認テスト等を全クラス一斉に実施できるような環境づくりを行っていく必要がある。
	保健環境	心身の健康管理についての取組の充実	SC、SSW、訪問相談員と教職員が十分な連携をとり、教育相談活動を充実させ、生徒が安心した学校生活を送ることができるよう支援する。 健康調査を実施し、生徒の心身の健康状態について全職員で情報を共有し、生徒の学校生活に有効活用する。 性と心の健康相談や感染症予防の啓発活動を行い、生徒の心身の健康に対する意識の向上を図る。			B A A	A
校外の美化活動の充実	日々の清掃活動を充実させ、特にゴミの分別の徹底を目指す。 大掃除や三井高クリーンアップ週間に充実させ、生徒の美化意識を高める。 各学年による地域清掃活動を充実させる。	C B B	B	クリーンアップ週間は清掃の状況を評価されるため、熱心に清掃に取り組む生徒が多いが、それ以外の期間に清掃が徹底しない状況がある。次年度は生徒の意識を継続させる工夫が必要である。			
広報庶務	学校行事等の円滑な実施および検討・改善	要項や案内文書等を迅速に提示し、学校行事等を円滑に実施する。 三井高発表会について検討・改善を図り、活性化につなげていく。	A B	A	A	様々な学校行事については、計画的に準備し、実施することができた。三井高発表会は、生徒の変化に応じて見直しが必要である。	
	PTA活動の充実	PTA活動行事を精選し、活性化を図ることで、次年度の参加者確保につなげていく。 安全安心メール、学校HP等を活用し、保護者への情報発信を充実させる。	A B			A	PTA活動については、コロナ過以前の状態に段階的に戻していく必要がある。情報発信はSNSの活用などさらに充実させていきたい。
	広報活動の充実	学校パンフレットや学校HPを充実させ、中学校訪問等で活用して、生徒募集へとつなげる。 「体験入学・部活動見学会・進路相談会」を充実させ、生徒募集へとつなげる。	B A			B	広報活動は、様々な場面で取り組んできたが、生徒募集につなげるためにはさらに工夫した取組が必要である。
	保護者・地域と連携した学校行事の活性化	体育祭や三井高発表会など保護者や地域に開かれた学校行事の充実を図る。 野田宇太郎生誕祭や松崎地区文化祭などと連携して行事を行い、地域への発信を図る。	A B			A	保護者・地域に開かれた学校については、コロナ過以前の通常の状態に戻りつつあり、より地域との連携を深めていきたい。
人権・同和教育	人権・同和教育に関する知的理解と人権感覚の向上	教職員の人権に関する知識理解と人権感覚の向上のため校内・校外研修へ積極的に参加する。 各地区における連絡会や地域で開催される諸行事へ積極的に参加する。	A A	A	A	本校職員には少なくとも年間1回の校外研修への参加を呼びかけを行い参加してもらった。2回以上研修に参加される職員も多く積極的な姿勢が見えた。 次年度は、個別の人権課題に関する図書や資料を充実させ、校内においても学ぶ機会を増やしていきたい。	
	個別的な人権課題や生徒の実態を踏まえた人権・同和教育の推進	人権教育関係の図書や資料の充実とその周知を行い、人権・同和教育学習の改善や新たな取り組みに活かす。	B			A	学校や家庭だけでは支援が難しいケースも多かったが、SSWやSCと協力し関係機関との連携を行い支援を行うことができた。家庭訪問週間を再開し、家庭背景を含めた生徒理解や家庭との連携を図ることができた。
		生徒理解のために家庭訪問や中高連絡会などを通して、家庭や中学校、関係機関との密な連携を図る。 生徒の実態把握に努め、各学年の課題を踏まえて、3年間を見通した人権・同和教育学習を実施する。	A B			A	人権・同和教育学習については、学年の事前学習などで協議を行い、指導案の検討を行うことができた。次年度は、人権教育関係の資料や研修会の内容の周知をさらに行い、本校の実態に応じた人権・同和教育学習が実施できるよう更なる改善につなげていきたい。
事務部	教育環境の整備及び改善	定期的な施設設備の点検により、校内危険箇所等の迅速な把握及び改善に努める。 令和3年度から3年計画で実施している大規模改造・改修工事について、引き続き教育活動に支障なく実施できるよう各分掌との情報共有を徹底する。	B	A	A	施設設備の不備や危険箇所等には日々迅速に対応しているが、電気設備の老朽化により、停電による休校を余儀なくされた。今後更なる施設点検の強化と計画的な設備の更新を行っていく。大規模改造工事においては、工事の遅れや不測の事態による工程変更等もあったが、業者や各分掌との連絡調整により教育活動におおむね支障なく実施することができた。	
	予算の効率的・効果的執行	契約内容の見直しや、執行予算の精選等により、予算の効率的・効果的執行に努める。	A			予算執行の必要性を精査し、見積もり合わせの業者開拓等により経費を抑えることができた。来年度も更なる経費削減に努めたい。	

A	・ICTの活用については、他校と同様にさらに力を入れていきたい。Wi-Fi等の制限でICTを利用することが難しい場合は、県にしっかりと状況を伝え、予算を付けてもらえるよう努力していただきたい。
A	・大雨の時など、グラウンドの南側へグラウンドの土が雨水と一緒に流れ出る状況がある。学校として、十分な対応をしていただきたい。また、さくらの花などが落ちた後に、学校周辺の掃除をしていただけるとありがたい。
A	・三井高生が参加することで、継続できている地域の催し物がある。続けてほしい。今後、松崎区では、文化祭や敬老会があるので、そちらにも何らかの形で参加していただきたい。
A	・地域連携の取組等において、多様な存在に出会い、人権感覚が身に付く。継続して学びにつないでほしい。
A	・今後も大雨などの大きな災害が起こる可能性が高いと思われるので、食料の備蓄なども視野に入れて取り組む必要がある。

評価項目以外のものに関する意見

・ホームページやInstagramから学校行事、部活動、地域連携の様子がよく分かった。継続してほしい。そして、中学生等のためにもスマホ対応にしたいだけだと思う。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・交通安全に関する指導を継続して行って行く中で、自転車通学者へのヘルメット着用を推奨していく。
- ・地域連携・外部機関と連携した取組を継続し、交流等を通して、生徒の自己有用感を高めていく。
- ・ホームページやInstagram等をさらに充実させ、三井高生の活躍や三井高の魅力を積極的に発信していく。
- ・
- ・